

第3章 語源がもっとおもしろくなる ——英語の歴史

英語というと、アメリカ英語を最初に思い浮かべる方も多いと思いますが、英語はもともとイギリスの言葉です。

「イギリス」とはおおまかな言い方です。英語が発達したのは**ブリテン島、イングランド**というのは**ブリテン島の一部**です。ブリテン島を3つに分けた、スコットランド、ウェールズ、イングランドの中の1つです。

私たちのイメージでは、イギリスは島国ですが、ドーバー海峡を隔ててヨーロッパ大陸とは約30kmの近さにあります。ドーバー海峡を泳いで渡ろうとする人たちもいます。

島といっても、大陸から遠く離れた島ではありません。はるか昔、氷河期には、ブリテン島は、ヨーロッパ大陸と地続きでした。

イギリスとフランスを海底でつなぐユーロトンネル（英仏海峡トンネル）は、全長50km、海底部分38kmです。ちなみに、本州と北海道を結ぶ青函トンネルは、約53.9km、海底部分23.3kmです。こうしてみると、イギリスはフランスの目と鼻の先です。

イギリス（ブリテン島）には、ずっと同じ人たちが住んでいたのではありません。このことは英語の歴史を考えるとときにとても重要です。

日本にいと、つい島国イギリスに日本のイメージを重ねてしまうのですが、日本のように同じ人たちが（あくまでイギリスと比べた場合ですが）住み続けたのではないのです。

イギリスの歴史と、日本との違いをひと言で述べると、大陸のすぐ近くにあり、外部からの侵入と影響を受けてきたのがイギリスなのです。

まずは、英語の歴史の流れをまとめてみましょう。

(1) 英語以前の時代

▶ ストーンヘンジ——巨石遺跡

最初にブリテン島に住んでいた人たちは紀元前3000年から2000年頃にストーンヘンジと呼ばれる巨石遺跡をつくったことで有名です。これらの遺跡は何のためにつくられたのかわからないのですが、こういった遺跡は農業社会の発達と関係があるようです。

▶ ケルト人がブリテン島に来る

次にイギリスに来るのはケルト人です。ケルト人はフランスやスペインにも住んだ、古代ヨーロッパで大きな影響力を持つ民族です。好戦的で酒好き、勇敢で誇り高い戦士であったケルト人は、戦いに勝利すると数日間も続く大宴会を行ったといわれています。ケルト人は大陸からブリテン島に渡ってきました。ロンドンを流れる**テムズ川（Thames：ケルト語で「暗い川」）**はケルト人の言葉の名残です。

▶ その頃ギリシア、アテネでは

紀元前5世紀頃には、ギリシアの都市国家アテネでは民主主義の政治が行われ、紀元前4世紀にはソクラテス、プラトンなどの、今日でも知られる哲学者が活躍しました。

ローマでは紀元前509年に王政打倒により共和制が確立し、拡大を始めます。のちに英語に大きな影響を与えるギリシア語とラテン語はこれらの国々の言葉です。